

11月4（水）第4回市民ワークショップ 記録

富田さん：それでは第4回ワークショップを開催いたします。
本日は泉谷さんにお越しいただいております。いろんな話を聞けるとお思いますので、よろしくお願ひします。

【市民ワークショップ特別講演】

もてなさない、補助金を出さない、数字を追いかけない。

“ないないづくし”の移住定住促進とは？

講師：周防大島町定住促進協議会 ふるさとライフプロデューサー

泉谷 勝敏さん

～特別講演～

富田さん：泉谷さん長時間ありがとうございました。ここで、前田先生にマイクをお渡しして、皆さんの意見をお伺ひしたいと思います。

前田先生：いろんなキーワードが出て、勉強になったかと思うので、泉谷さんに質問があればいかがですか。

質問者①：お試し暮らしの住居は古民家を利用したということだったのですが、100パーセント居抜きでこの状態だったのですか？

泉谷さん：家財が残っている物件を探してまして・・・

質問者①：ほぼ改修費はかからずに使えたということですか？

泉谷さん：古民家を利用したいと思ってから半年以上物件が出てこなかったもので、ある程度の手ごろな大きさと、テレビ、冷蔵庫などが揃っている家を探しました。家財は最悪無ければどっかの空き家から持ってくると良いとは思っていました。場所は島の真ん中であり、ほどほどの大きさの物件を探しました。そのタイミングでテレビ、洗濯機、エアコンが付いている物件が出てきましたが、家主に空き家バンクに登録してくれと言われたので、この物件をうちに貸してくれないかということで、通年で家賃を払うからということで交渉しました。改修費などは全くかかっていません。むしろこっちが、押入れなど見栄えの悪いものは勝手にぶち抜きました。

質問者①：外国人の方が 80 名弱来るようなのですが、これはどういう内訳ですか？

泉谷さん：カンボジア、中国人の方も多かった時期もあったが、最近は東南アジアの方が多いです。

質問者①：これは定住者なのですか？

泉谷さん：定住者というよりは、縫製工場ですね。定住というよりも転入です。転入がそういう人たちが数字で入ってくるということです。転入と転出の数字です。そのため、UIT ターンの移住者の数は多すぎてつかめていないです。その数字を私自身が無意味だと思っ
ていて、体感的に分かっていればいいと思います。

質問者①：もしかしたら外国人はもつという可能性がありますか？

泉谷さん：外国人の数はそのくらいです。それは役場の転入転出のところで調べておりますので。

質問者①：その人たちは、本国へ帰って、次の人がくるような契約になっているのですか？

泉谷さん：そんな入れ替えだと思います。もちろん民間の縫製工場さんが雇っていたりしています。

質問者①：定住者ではありませんか？

泉谷さん：定住者ではないです。定住人口ではありません。

質問者①：就業者ですか？

泉谷さん：そうですね。転入転出の数字は外に出ているかと思いますが、移住者が何人いるというのは、データとして外には出ていません。

前田先生：あまり数は信用していないのでしょうか？

泉谷さん：数というのは、数字の世界にいたものですから数字の大事さは分かっていますが、それと同時に数字の無意味さも分かっているつもりなので。

100 人、200 人増やせと言われれば口先だけでできます。都会の情報の刷り込みにより、田

舎は家賃が安いと思っているからです。

移住者を増やすのは大事ですし、それは至上命題ではあるとは思いますが。数を増やすのは仕事ではなく、どんな人に来てもらうかにこだわりたいと思っています。

そのため数字を追いかけてしまうと、おかしなことになります。そのため、10名の何もしない人よりも、1名の島に貢献してくれる人に来て欲しいと考えています。田舎は沈みかけの船です。何もしなかったら沈みます。そのため危機感を持っています。しかし悲壮感を持っていません。

前田先生：他に質問はありませんか？

質問者②：お金のお仕事ファイナンシャルプランナーという仕事そのものは、どういうことをやっておられるのでしょうか？

泉谷さん：住宅を買ったり、家計の見直しをしたりしています。

質問者③：動画を見たのですが、私の主観では、都会人が考える田舎暮らしはこうだよというものであると思いましたが・・・。

泉谷さん：基本的にはセリフがないので、10通りの感想があつて良いと思います。あれは、私の昔の暮らしと今の暮らしです。ただ、狙いはそこではなく、あのCMと相談に来た人自身が自分と重ね合わせて、色々しゃべってくれたらいいなということが狙いです。

質問者④：泉谷さんの求める人材と違う人に対してどのように接していますか？

泉谷さん：求める存在とは違う方には断っています。特に、サービスを求めているような人には、窓口では厳しく言います。(移住者に対しての考えを説明)

前田先生：他にありますか。

質問者⑤：感想発表 高齢化が進行するところにおいて、人口増加は単に増えれば良いというものではございません。移住した方が地域でどういう役割を担い、地域コミュニティの再生に関わるかと言うことが大切だということに共鳴しました。

質問者⑥：町が持っていた方針と自分の考えはどういう違いがあり、折り合いをつけていたのですか？

泉谷さん：もともと行政と民間の考え方が違うものであると思っています。それは違うということに対しては、蓋をしていきました。

前田先生：まだまだ聞きたいところがあると思いますが、このあたりで終わりたいと思います。

富田さん：前田先生ありがとうございます。それでは、次回の予告をします。
それでは第4回のワークショップを閉会いたします。

